

【パズル小説®】

■ 街や地域を活性化させるツールとして注目の「謎解き」

地域活性機構では、さまざまな地域の活性化を目的としたイベントにも取り組んでいますが、新たに街や地域を活性化するツールとして注目を集めている「謎解きクロス」、「ミステリーウォーク」を展開します。「ミステリーウォーク」は、地域の魅力を掘り起こし、それをミステリー風の『謎解き』のストーリーを加えて、参加者が自らリアルな街、リアルな人、リアルな文化、そしてリアルな商店街に関わるように構成された地域独自のコンテンツを発見していく新しい参加型のリアルゲームです。

新型コロナ禍により三密型イベントが中止となっています。特に地域活性化につながるイベントは三密こそが魅力の原点。人が集い、地域の「魅力」を確認し、三密の楽しさで一体感を醸し出すことができました。しかし、新型コロナ禍で集客もお祭りも自粛し、不要不急の外出は厳禁。観光客も激減し、経済も停滞しています。

例えば、夏の風物詩である「打ち上げ花火」は2020年に予定されていた全国220カ所のうち9割が中止。もともと自宅やマンションの軒先で遊ぶ線香花火は、爆発的に売れたそうです。このように新型コロナ禍では、三密を避ける新しい日常が必要で、地域活性イベントも「集客」とは別の形で、「地域」を確認する仕掛けが求められています。そうしたなか、有効な地域活性ツールとなるのが、「パズル小説®」です。

NHKニュースで紹介された米国の女性は約100年前のスペイン風邪のときに1歳。新型コロナ禍は人生2度目のパンデミックです。彼女は自粛の時間に【編み物・読書・パズル】を楽しむそう。これまで【編み物・読書・パズル】は満員電車や待ち時間で「ひまつぶし」に使われてきましたが、今後、線香花火のように注目されることでしょう。

▶ パズル小説®

謎解きクロス®という新型パズルで構成されるミステリー風の「パズル小説®」は、地域の魅力をミステリー風小説にまとめ、読者がパズルを解くことで自ら地域の魅力を発見するツールです。これまで地域活性ミステリーウォークのときに制作してきたものですが、新型コロナ禍にも十分対応できツールとなります。

- 「パズル小説®」は、対象となる地域を事前に取材し、A5版カラー12頁の印刷物を作成します。
(2000部配布、受注3ヵ月後納品)

- 地域を紹介するパンフレットの代わりに、商店街イベントの代わりにご活用いただけます。



【パズル小説®】

【展開事例】

(過去にイベントを50回以上行い、延べ5万人の皆さんにパズル小説が配布されました)

- ・2008年11月「第1回伊豆下田ミステリーツアー」
(以来11回連続で開催中)
- ・2009年12月「大井川鉄道&寸又峡温泉ミステリーツアー」
(移住交流推進機構の助成)
- ・2010年06月「西小山ミステリーツアー2010」
★第7回東京都商店街グランプリ優秀賞
- ・2013年08月「喜多方・古代文字ミステリーウォーク」
★観光庁タビカレで日本一
- ・2016年10月～11月「のんびりイベント散歩」
6地域で展開～総勢5000人参加
- ・2017年09月「信州上田(しなの鉄道)謎解きミステリーウォーク」
(上田商工会議所)
- ・2018年09～10月「渋谷謎解き街歩きー渋谷南へカクダイ」
(東急電鉄&地域商店街)
- ・2019年07～09月 松本城(薪能)
(ミステリーナイト松本市教育委員会)
- ・2019年11～12月 下仁田町パズル小説®配布
(日本初の英語バージョンも作成) 他。



「伊豆下田ミステリーツアー」



「渋谷謎解き街歩き」

▶ 「ミステリーツアー」や「パズル小説®」などを展開している当財団の廣川州伸理事が主宰する合資会社コンセプト研究所は、2008年9月より地域活性化を目的とした「ミステリーウォーク」や「謎解きクロス展開」を推進しています。これまでに全国で延べ50ヶ所80回もの「ミステリーウォーク」をプロデュースしたのち、2019年1月に「謎解きクロス®」による小説を「パズル小説®」と命名し、全国各地で実施しています。

